



宗像



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

平成二十八年を振り返って

本年は、昨年来からの世界文化遺産の国内代表、第三十七回全国豊かな海づくり大会の開催地の決定など、先人たちの努力の蓄積により、「宗像」の地がまさに動き出したような年であった。

四月には未曾有の大災害となった熊本大地震が発生。宗像も震度四の揺れを観測、被害はなかったが災害対応の認識の甘さを感じさせられた。国を挙げての被災地の復興支援は日本の底力を感じさせられたが、あらためて先人たちの叡智や自然観についても考えさせられた。

八月には世界遺産の諮問機関「イコモス」の最終調査を終え、いよいよ来年四月の勧告を待つばかりとなったが、構成資産の中で最も重要な位置づけとなっている「沖ノ島」は、今後、その神聖さと生態系を維持するため、伝統的な禁忌はもとより、今以上の厳しい管理が求められるようになる。人々が立ち入ることができない沖ノ島の普遍的価値をどのようにして理解いただくのか、今後さらなる努力をしなければならぬ。

天皇皇后両陛下の三大行幸啓行事の一つである第三十七回全国豊かな海づくり大会が来る平成二十九年十月二十九日に宗像市での開催が決定し、本年十月三十日には小川福岡県知事をはじめ関係者が稚魚の放流会場となる鐘崎漁港に集まり、放流のプレイベントが執り行われた。宗像の歴史は日本神話の記述にもあるように、神話の時代より歴代天皇をお助けすることがこの地域の役割とされてきた。そして、それは時代が変わろうとも市民の心の中に今も引き継がれている。そのためこの行事は先人たちの深い想いを考えながら、細心の準備に取り掛からなければならない。

秋には、「宗像・沖ノ島大国宝展」と題し、沖ノ島出土の国宝のみを展示した神宝館での特別展を開催。九月十七日から十一月二十八日までの会期中には四万人を超す人々が来場され、学識者といわれる様々な分野の方々も大勢来られ、沖ノ島への関心をあらためて感じさせられた。宗像の研究は未だ道半ばであるが、今後はあらゆる分野の研究者などにより、宗像の歴史がさらに解明されるのではないかと感じた次第であった。

余滴

「宗像・沖ノ島大国宝展」は、期間中多くの拝観者を迎え、先月二十八日盛大裡に幕を閉じた▼沖ノ島の学術調査は、昭和二十九年より行われ、神祕に閉ざされた「神宿る島」が広く世間に知れ渡る事となる。この調査は戦後、最高最大の発見と呼ばれた。では、なぜ一木一草一石たりとも持ち出さないとこの禁忌が固く守られてきた御島で学術調査が行われたのか▼昭和二十七年、サンフランシスコ講和条約発効により、我国は独立国として戦後」という時代を歩み出すが、GHQの占領政策により、国家原理となる「神話」は未だ定され、未来を育む教育現場からも抹消された。イギリスの歴史家アーノルド・トインビーは、「十二、十三歳くらいまでに民族の神話を学ばなかった民族は例外なく滅んでいる」と語る▼沖ノ島祭祀遺跡において最古とされる岩上遺跡にて出土した、鏡・剣・玉の神宝の意義を。日本書紀が編纂される四百年も前に、日本固有の祭祀三種の神器を用いた神祭りが、玄界灘に浮かぶ絶海の孤島で執り行われていた事実。沖ノ島神宝の発見、それは神話の出現そのものであり、神話の中にある史実の証明であった▼我国存亡の国難に際し、神宝という形で国家再建の道を示された宗像の大神。そして発掘は最小限に止めながらも、学術調査を決断された先人達に思いを馳せる。(床)

第46回

西日本菊花大会閉幕

宗像の秋を彩る菊の祭典、第四十六回西日本菊花大会(主催〓宗像大社)

菊花会・宗像観光協会、後援〓福岡県他)が、十一月一日から二十二日まで

行われ、境内には九州各県、山口の菊愛好家約

一〇〇名から、菊の花約二千鉢が出品され、

七五三詣など期間中に訪れた多くの参拝者を魅了した。

十一月一日には、福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター苗木・

花き部々長松野孝敏氏を審査長として、

厳しい出品基準・審査基準に則り厳正に

審査され、各賞を決定した。同十六日には、当社の

清明殿にて表彰式が開催され、賞状・トロフィーが各受賞者等に授与された。



観菊者で賑わう境内

本年は猛暑や九月の長雨の影響により、菊の成長がうまくいかないとな数々の連絡を受けていたが、会員の皆様の努力により色彩豊かな見事な菊花が境内に出揃い、多くの参拝者を楽しませた。期間中の境内では、神宝館にて「宗像・沖ノ島大国宝展」が開催され、「菊みくじ」や観光協会による「いっぷく茶屋」、さらには観光ボランティアの皆様による境内案内なども行われた。本大会開催にあたり、ハウスの設営・菊花搬入出等の奉仕活動に御協力頂きました、宗像市商工会青年部、(公



特別展示
内閣総理大臣賞
受賞作品



内閣総理大臣賞 受賞作品

各賞、受賞者は下記の通り(敬称略)

| | |
|------------|-------|
| 内閣総理大臣賞 | 保田直宏 |
| 農林水産大臣賞 | 和田太義 |
| 文部科学大臣賞 | 福嶋廣之 |
| 総務大臣賞 | 生武静男 |
| 法務大臣賞 | 船越順一 |
| 外務大臣賞 | 安武善隆 |
| 財務大臣賞 | 時田義光 |
| 厚生労働大臣賞 | 古原正則 |
| 経済産業大臣賞 | 吉田陸雄 |
| 国土交通大臣賞 | 城本勝行 |
| 環境大臣賞 | 豊原勇美 |
| 防衛大臣賞 | 近藤良知 |
| 内閣官房長官賞 | 御田良四郎 |
| 衆議院議員宮内秀樹賞 | 土居幸一 |
| 宗像大社宮司賞 | 船越順一 |

※以下、受賞者につきましては紙面の都合上割愛させていただきます。



菊人形の前での記念撮影の様子

社)宗像青年会議所、運送会社外多数の皆様、誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

三笠宮崇仁親王殿下薨去

三笠宮崇仁親王殿下が十月二十七日午前八時三十四分、聖路加国際病院(東京都)で薨去された。御歳百歳であられた。

三笠宮殿下には大正四年、大正天皇の第四皇男子として御生誕、昭和天皇の弟宮にあたられる。男子皇族の責務として学習院中等科を経て陸軍士官学校・陸軍大学校を御

卒業。陸軍で騎兵将校、更に参謀としての御勤務により陸軍少佐に栄進されると共に貴族院議員として終戦を迎えられる。

戦後は東京大学文学部研究生として歴史研究を始められ古代オリエント史を御専攻。昭和三十年頃より東京女子大学・青山学院大学等の講師をお務めになられた。その頃よ

り出光興産創業者・出光佐三翁とも親交を深められている。当時、佐三翁は私財を投じて沖ノ島の発掘調査を進められており、沖ノ島を中心とした国史にも関心を寄せられた。

当社には、昭和四十四年と同五十年の二回御参拝された。一回目は、沖ノ島第三次発掘調査の折での昭和四十四年十月十日より十三日迄の三日間、三宮を御巡拝あらせ

られ、その折の記念植樹が沖・中両宮に残っている。二回目は、昭和大造営が完

成した昭和五十年十月二十五日に百合子妃殿下と共に御参拝になられた。その際には、総社・辺津宮、高宮、第二宮・第三宮の巡拝に引続き殿下御詠の歌碑を披露申し上げた。



S.44.10.11 沖ノ島にて

その歌碑は、同年一月十日宮中歌会始の儀においての応制歌で、その年の御題「まつり」に合わせ「沖ノ島森のしげみの岩かげに千歳ふりにし神祭り」と一回目の沖ノ島参拝時の感慨を御詠みになられたものである。



当社では、殿下の薨去にあたり宮司が宮邸の通夜に二日参列、四日の斂葬の儀に合わせ遙拝式を執り行った。また、薨去の十月二十七日午後より弔問の記帳所を境内に開設、七百二名の参拝者に記帳頂いた。



御手植の様子(中津宮にて)

昭和五十四年には、宮の御発意により佐三翁が全面的に協力して財団法人

ここに謹んで哀悼の意を表し御霊の御平安をお祈り申し上げます。

時満ちて道ひらく

造営日記 28

勅使館解体清祓神事

十一月十四日、勅使館解体に伴う解体清祓神事を執り行った。昭和四十六年、昭和の造営に際し辺津宮本殿遷座祭を斎行。勅使の御参向に併せ建設され、



勅使館 (解体前)



覆われた勅使館

それ以来も貴賓館として使用されていたが、近年は経年劣化により雨漏りが絶えず、設備も老朽化し、今回建替えの運びとなった。翌日から早速解体作業が進められ年内には更地となり、年明け早々には新築工事がはじまる。竣工は来年九月を予定している。

第四十一回

清香吟社奉納吟詠大会

十一月三日、秋季恒例の清香吟社宝山会による秋季奉納吟詠大会が開催された。

午前十時、宝山会々長をはじめ、県内外より会員約四十名が当社へ参集。清明殿にて会員各々が順次日頃鍛えた自慢の喉で吟詠が披露された。

午前十一時、本殿にて正式参拝を執り行い、献

吟並び会員一同による「吟道」の合吟が奉納された。菊花展で彩られた境内に朗々と響き渡ると、多くの参拝者とその美声に聴き入り暫し足を止め深い感銘を受ける様子が見られた。

献吟後、一同は清明殿へと移動し式典が開催され、村上昌月氏へ葦津権宮司より永年斯道の興隆に寄

与された方へ感謝状と記念品が贈呈された。



午後一時には日程の全てを終え、一同バスにて直会会場へと移動した。

第八回

博陽吟道会秋季奉納吟詠大会

十一月十日、博陽吟道

会奉納による吟詠大会(協賛・吟道清吟会)が開催された。清明殿にて会員らによる吟詠大会を開催。その後午後一時より、本殿にて正式参拝、博陽吟道会・吟道清吟会両会員

による合吟が奉納された。

その後、清明殿にて会員等による会詩の合吟が行われた。大会終了後、会員等は今後更なる飛躍を誓い合い、境内中に咲き誇る菊花を愛でながら大社を後にした。



第45回

宗像大社短歌大会

宗像大社短歌大会実行委員会

十一月六日、清明殿において「宗像大社短歌大会」実行委員会主催、毎日新聞社共催、宗像大社ほか後援の短歌大会が行われた。

午前の「小中高生の部」では、二二九九首の応募があり、当日の参加者は先生方や保護者の方々も含めて約七十名。桜川冨子先生による入選

作品の選評を熱心に聞き入っていた。表彰式が終ると、賞状を持った生徒さんと家族が演台を背に記念撮影をする姿が見られた。

午後の「一般の部」では、参加者は約四十名。はじめに、渡邊禰宜より挨拶を行う。三笠宮崇仁親王殿下の薨去を悼み沖ノ島調査や大社訪問のエピソードなどに触れ、来年の世界遺産登録への期待と、短歌大会の盛会を期待する話をする。続いて有川知津子先生の「白秋の初期の詩法に学ぶ」と題する講演があった。

「一般の部」の応募者数は二七三首。入選作品と出席者の作品について、青木昭子・野田光介・大野英子・桜川冨子の各先生から、添削もまじえて講評を頂いた。簡潔で分かりやすい解説に、参加者はメモをとりながら最後まで熱心に聴き入っていた。最後に、福岡県知事賞以下、宗像大社賞、佳作までの表彰式があり、拍手のうちに閉会した。

主な受賞者は次の通り。

一般の部

◆福岡県知事賞

川崎 芳子 佐賀市
砂浜に脚もて描く太き文字「心」残して少年去りぬ

◆福岡県教育委員会賞

末次 典子 福岡市
常ならぬ日照りつづきをはたした神屏風にあそぶ時ではないぞ

◆宗像市長賞

金澤 諒和 大分市
青空になるまで振った手のひらが父見送りし記憶の全て

◆福津市長賞

中村 仁彦 福岡市
壊された家の跡地に丈高しオアレチノギクヒメムカシヨモギ

◆宗像市教育委員会賞

井寺 容子 筑後市
子に読みてその子の子にも読んでゐるずつと終はらぬ「いないいないばあ」

◆福津市教育委員会賞

甲斐田絹代 八女市
打ち返す土に太陽充たしめて大豆小豆の種を落とせり

高校生の部

◆宗像市長賞

中田 光紀 並木学院福山 1年
三日月の綺麗な宵の闇に立つぼくはひとつの心ある個体だ

◆福津市長賞

松本 春花 宗像 1年
雨の日に告げる想いを雨音にかき消されたくてあけた2メートル

中学生の部

◆宗像市長賞

井塚 健心 立石 3年
大空にとぶことのない砲丸がいまこの手からとびたつていく

◆福津市長賞

今村 美空 星野 3年
競い合う私と前の私とで走り続ける二〇〇〇メートル

小学生の部

◆宗像市長賞

大嶋 舞香 明星学園5年
波が来て手品みたいに現れた白い貝がら夏の思い出

◆福津市長賞

常門 稜 中津原 6年
バナナ食ベゴリラに近づく訓練だばくらの先生怪力ゴリラ

平成29年 厄年一覽表

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|------|
| 昭和55年 | 昭和52年 | 昭和51年 | 昭和50年 | 昭和47年 | 昭和38年 | 昭和33年 | 昭和32年 | 昭和31年 | 昭和29年 | 昭和20年 | 昭和11年 | 昭和2年 | 生まれ年 |
| 前厄(女) | 前厄(男) | 大厄(男) | 後厄(男) | 八方塞 | 八方塞 | 前厄(男) | 大厄(男) | 後厄(男) | 八方塞 | 八方塞 | 八方塞 | 八方塞 | 厄 |
| 37 | 40 | 41 | 42 | 45 | 54 | 59 | 60 | 61 | 63 | 72 | 81 | 90 | 満年齢 |
| 平成20年 | 平成12年 | 平成11年 | 平成10年 | 平成6年 | 平成5年 | 平成4年 | 平成2年 | 昭和61年 | 昭和60年 | 昭和59年 | 昭和57年 | 昭和56年 | 生まれ年 |
| 八方塞 | 前厄(女) | 大厄(女) 八方塞 | 後厄(女) | 前厄(男) | 大厄(男) | 後厄(男) | 八方塞 | 前厄(女) | 大厄(女) | 後厄(女) | 前厄(女) | 大厄(女) 八方塞 | 厄 |
| 9 | 17 | 18 | 19 | 23 | 24 | 25 | 27 | 31 | 32 | 33 | 35 | 36 | 満年齢 |

厄年

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった「厄」にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。

特に男性の四十一歳、女性の三十二歳は「大厄」とされ、その前後の年も「前厄・後厄」といって、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習でありませんが、厄年を迎えると我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十年代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちでお過ごしください。

八方塞

はっほうふさがり
陰陽道でどの方向に向かつて事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事をはじめめる方は要注意と言われています。

交通安全 宗像大社 初詣

交通規制のお知らせ

| 期間 | |
|----------------------------|-----------------------------------|
| ●平成28年12月31日(土) | 午後10時から 平成29年1月1日(日) 午後8時まで |
| ●平成29年1月2日(月)～1月4日(水) | 午前9時から午後8時まで |
| ※交通状況により、規制時間を変更することがあります。 | |

| 凡例 | |
|----|--------|
| | 宗像大社順路 |
| | 一方通行 |
| | 歩行者用道路 |
| | 車両進入禁止 |
| | 交通信号機 |
| | 駐車場 |



※主要地点から宗像大社までの距離
 ★東郷橋交差点から 4.1km ★神湊交差点から 2.0km
 ★日の里北口交差点から 4.1km ★瀬戸交差点から 3.3km
 ■公共交通機関をご利用ください

第六六四回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 多禮 早川 祥三

今盛り流刑の島の夏みかん安倍宗任の墓を望めば

大島の歴史が見える。字余りになるが切れを一つにし(安倍宗任の墓処に來れば今盛り流刑地大島の甘夏みかん)。

宗像市 宮田 山本 静子

天空の大き白雲胸ふかく入りたるようなしんみりと秋

ゆたかな詩心が感じられる魅力的な一首。四句と結句の間を一字空けにしたい。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

彼岸入り墓碑立つ寺の境内にて銀杏拾ふ足さへ弾む

銀杏拾いに行った作者、結句に喜びが表れる。助詞を初句へくの入り(三句へく)で。

北九州市 門司区 北野カズミ

エレベーターの鏡に髪をととのへて施設の母と毎日を会ふ

母思いの作者。三句以降をへとのへる施設で日々(母と会ふ前)と三句切れに。

福津市 若木台 山崎 公俊

地の島が上下して見ゆたふたふと渡船「しまかせに浪うちつけて

擬音語たふたに感じが出ている。結句は(浪に打たれて)と受け身にしては。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

機械にてあつといふ間に刈られたる稲田が生葉のほひを放つ

効率よく刈られる稲、刈った後の田の匂いに注目したのが良い。生の葉の匂いがリアル。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範

白髭の教え子がノーベル賞受賞満面の微笑み面影ありき

教え子がノーベル賞を受賞した感慨。(ノーベル賞受賞の教え子白髭の笑みにかつての面影のこる)。

宗像市 自由ヶ丘 萩原 勉

着陸に勧められたるあめ玉は小さくなりても甘さ変わらず

着陸前にもらった飴。下の句を(到着の)のちも甘さがつづく(と)時間を詠みこんでは。

宗像市 池田 森 龍子

にわたりの餌食に取りし蝗など思いて稲穂を遠くに望む

もう昔のことか、鶏の餌にする蝗を捕った思い出の歌。二句は(餌に取りたる)に。

宮若市 宮田 本田エリナ

崖下の皇帝ダリア皆倒れ首をもたげてお日様仰ぐ

皇帝ダリアは強く、倒れてもまた空に向かって伸びる。三句は一本に集中し(倒れても)。

宮若市 水原 吉崎美沙子

飯粒を撒きて木になる一羽きて雀群がる木は動けない

作者は気持ち木に託しているのか、童話的な世界、二句(撒けば木に居る)に。

福津市 中央 池浦千鶴子

残暑つづく毎日常れど桜葉は色づきそめて秋をしらしむ

歌のとおり、毎年桜が最初に紅葉する。言葉が少し固いので結句(知らせる)。

◆選者詠

かへるでが色づく庭に咲き出でて

やたらのつばの皇帝ダリア

ひと枝を欲りて寄りゆき見下ろさる

皇帝ダリア高みの花に

第六三七回

俳句作品集

宗像市 光岡 白土 凌一
名月や雲におおわれ姿消す

編集後記

社報「宗像」を編集し

始め、気付けば師走となりました。この一年間はものすごく早く過ぎていったような気がします。今秋に開催しました神宝館での特別展「宗像・沖ノ島大國宝展」では多数の方が来場し、沖ノ島への関心の高さを感じさせられました。来年は世界遺産登録、全国豊かな海作り大会の開催など更に宗像に多くの関心が寄せられる年になる気がしております。誌面を通して皆様に宗像大社のこと、宗像のことを伝えていけるように努めてまいります。皆様どうぞよいお年をお迎え下さい。(黒)

発行所

宗像大社社務所・宗像会

住所 所 八二一―三五〇五

福岡県宗像市田島二三三一

電話 (〇九四)六二一三三二(代)

発行人 葦津 幹之

編集人 大塚・鈴木・黒神

制作・印刷 ゼネラルアサヒ

12月 祭事暦

- 1・15日 月次祭
 - 午前10時 高宮祭、第二宮・第三宮祭
 - 引き続き 宗像護国神社 月命日祭(1日)
 - 午前11時 総社祭 浦安舞奉奏(1日)
 - 豊栄舞奉奏(15日)
- 18日 古式祭 午前6時～
- 御座 午前6時30分～
- 鎮火祭 午前10時～
- 19日 松尾神社祭 午前11時～
- 23日 天長祭 午前11時～
- 31日 年越大祓式 午後3時～ 引き続き除夜祭